

『富士講』についての話であったな。富士講の開祖は、長谷川角行というお方じゃ。生まれは、長崎なんじゃ。応仁乱以来の戦乱の終息と治国安民を待望する父母が北斗星に祈願して授かった子だったんじゃ。7歳で北斗星のお告げをうけて己の宿命を自覚し、18歳で諸国修行に出たとな。もともとは、修験道の行者だったんじゃよ。』



ふじのだいがこうざえもん
富士大我講左衛門 年齢不詳
職業 大我講の先達
(先達とは案内責任者)

『北斗星に祈願して、角行が授かったことや、北斗星のお告げを受けて、修行に出たなんて、北斗星の繋がりは、不思議でまっすん。けれども、富士講の代表的なものといえば、「フセギ」でまっすん。角行は、富士の人穴（富士宮市）や北口本宮参道の立行石等で荒行を重ね、法力を得たでまっすん。天和6年(1672)江戸では、「ツキタオシ」という奇病が流行し、3日で1千人の死者が出たでまっすん。角行は、フセギという御符を授け祈祷の力によって多くの患者の命を救ったでまっすん。これによって、江戸の多くの人々に富士信仰が、広まったといわれているでまっすん。「御身抜」という軸装巻物を信徒に与え、神示によって360の文字を造り、護符や書物を作ったでまっすん。現在も重んじられているでまっすん。』

『クニマッスン、角行についてよく調べたのう・・・感心したぞ。古代より崇高な山であった富士山は、神体山だったからのう、人々が登るための山ではなかったんじゃよ。遥かにその御姿の見える場所から遙拝されていたんじゃ。時代が下り、仏教の伝来を経て、富士山は、修験道の修行の山となっていくんじゃ。江戸時代になると、晴れた日に、遥かに望む富士へ行きたい、登って拝みたいと思う人が増えて来たんじゃ。しかし、江戸から吉田までは健脚でも片道3日、吉田から頂上までは少なくとも往復2日、最低でも8日間かかったんじゃよ。費用を考えると、現代では想像もつかないほど多くの費用がかかったんじゃ。そこで、お金を集め代表を選んで、皆の祈願を託す「講」という仕組みができていったんじゃ。富士講だけではなく、お伊勢参りも「講」があったと聞くぞ。昔の人の信心深さには頭が下がるのう・・・近世になると、江戸を中心に各地域で、富士山信仰のための講「富士講」が成立したんじゃよ。』

『富士講の歴史を辿ると、元八湖再興がされた天保年間は、富士講の後期でまっすん。大我講は、数年の間に、関東一円に講中ができたというのだから、爆発的な人気だったということでもまっすん？当時の大我講の人気の秘密がなんだったか、とても、気になるでまっすん。今回は、その秘密にも迫ってみたいでまっすん。』

『そうじゃな。今回は、「御師」について、話していこうかのう・・・御師のことが分かってくると、大我講がいかに異色だったか分かってくると思うんじゃ。』

『「御師」についても、しっかり調べておくでまっすん。次号も、楽しみにしてほしいでまっすん』

クニマッスン

出生地 忍野村

山梨県水産技術センター

口癖 でまっすん・・・

